

授業科目名：体育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山下 晋
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学生の発達段階に応じた体育の各領域の授業内容について、説明することができる。 2. 体育の各領域の運動について、状況に応じて内容を工夫し、授業展開することができる。 			
授業の概要			
<p>本授業では、保健体育教師として、中学生がよりよく生きる力を育むために、まず自らの身体の状態を把握したうえで、これを向上または維持するための方法を理解する。また、それぞれの領域の運動について器具を用いる/用いないなど多様な実践的な学修を通して、学習者に運動の楽しさを伝えるための知識・技能を獲得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション／中学校における体育とその領域 第2回：ウォーミングアップとクーリングダウン 第3回：体づくり運動①（ペアで行う運動） 第4回：体づくり運動②（身近な素材を用いた運動） 第5回：巧みな動き①（鉄棒を用いた基礎的運動） 第6回：巧みな動き②（とび箱を用いた基礎的運動） 第7回：走る①（短距離走、リレー） 第8回：走る②（ハードル走）器具を用いない体づくり運動⑤リズム運動（集団） 第9回：ボール運動①（球技の基礎的運動、バルシューレ） 第10回：ボール運動②（ネット型スポーツの基礎的運動、プレルボール） 第11回：リズム運動①（1人で行う運動） 第12回：リズム運動②（集団で行う運動） 第13回：レクリエーションスポーツ（フライングディスクを使った運動） 第14回：レクリエーションスポーツ（スラックラインを使った運動） 第15回：体育のまとめ 定期試験（期末レポート）</p>			
テキスト：中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編（平成30年告示、文部科学省） その他、必要に応じて資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
<p>親子トレ運動によるふれあいを楽しもうー（フリースペース） その他、授業中に適宜紹介する。</p>			
学生に対する評価			
定期試験（期末レポート）（50%）、毎時のリアクションペーパー（50%）			

授業科目名： スポーツ実技（陸上競技）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：高嶋 香苗 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 保健体育の授業における陸上競技に関する自己の技能を高めるだけではなく、他者の技能習熟を引き出せる応用力を育成する。併せて、陸上競技の授業で活用することができる教材に関しても自己の考えを持つことができるようにする。			
授業の概要 学習指導要領に記載されている走・跳・投種目における実技と指導法について学習する。実技を通じて指導上の問題点や工夫すべき点などを列挙し、適切な指導法を構築していくことをねらいとする。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業の進め方、評価について説明する） 第2回：競技としての陸上競技と教材としての陸上競技の違い 第3回：短距離走1（走動作の修得、さまざまなリズムで走る） 第4回：短距離走2（計時方法の理解と実践、走に関する評価の方法） 第5回：ハードル走1（一定のリズムとスピードを維持しながら障害物を走り越える） 第6回：ハードル走2（さまざまなインターバルでハードルを走り越える、評価の方法） 第7回：走り幅跳び1（踏切動作と助走） 第8回：走り幅跳び2（助走から空中動作、着地までの一連の動き、測定方法の理解と実践） 第9回：走り高跳び（助走から空中動作、着地までの一連の動き、測定方法の理解と実践） 第10回：投擲種目1（砲丸投の基本的な技術と指導方法） 第11回：投擲種目2（槍投げの基本的な技術と指導方法） 第12回：長距離走（長距離走の走り方と指導方法） 第13回：リレー1（バトンパスのタイミング：パスの種類を実践的に学習する） 第14回：リレー2（バトンパス時の加速：走スピードを維持しながらバトンパス） 第15回：リレー3，まとめ（様々なリレーの方法，リレーの測定と評価の方法） 定期試験は実施しない			
テキスト 授業時に適宜紹介する			
参考書・参考資料等			

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編

学生に対する評価

理解度・技能の達成度（40%），最終レポート（30%），毎時間の小レポート（20%），受講姿勢（10%）

授業科目名： スポーツ実技（球技）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：縄田亮太、山下純平 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校、高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 体育授業における実践を想定し、球技の技術の向上と指導法を習得し、児童生徒の技能的な評価ができるようにする。実践上の諸問題解決のための方法改善の工夫についてアイデアをもつことができるようにする。			
授業の概要 当該実技能力を高めることはもちろん、各種運動の技能・ゲームの指導のポイントを理解することを旨とする。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス（担当：縄田亮太） 第2回：バレーボール（得点をする）（担当：縄田亮太） 第3回：バレーボール（得点をさせない）（担当：縄田亮太） 第4回：バレーボール（攻撃の準備）（担当：縄田亮太） 第5回：バレーボール（守備の準備）（担当：縄田亮太） 第6回：バレーボール（チームで攻撃）（担当：縄田亮太） 第7回：バレーボール（チームで守備）（担当：縄田亮太） 第8回：バレーボール（バレーボール大会を運営）（担当：縄田亮太） 第9回：ハンドボール（中学生向け・技術）（担当：山下純平） 第10回：ハンドボール（中学生向け・戦術）（担当：山下純平） 第11回：ハンドボール（高校生向け・技術）（担当：山下純平） 第12回：ハンドボール（高校生向け・戦術）（担当：山下純平） 第13回：ハンドボール（私たちのハンドボールを企画）（担当：山下純平） 第14回：ハンドボール（私たちのハンドボールを実践・準備）（担当：山下純平） 第15回：ハンドボール（ハンドボール大会の運営）（担当：山下純平） 定期試験は実施しない。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価			

授業への参加度【コメントシートなど】（70%）、授業態度（20%）、小レポート（10%）
にて総合的に評価する

授業科目名：スポーツ 実技（体づくり運動・ 武道）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：浅川正堂 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保 健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 剣道の理念や精神性を深く理解する。 2. 剣道の基本動作や竹刀操作を知り、学校体育における剣道指導の実践力を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、剣道の実技、理論、指導法を総合的に学びます。また剣道の精神性と基本技術を捉えた運動遊びと授業展開を計画・実践する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、剣道の意義</p> <p>第2回：剣道基本動作と運動あそび①（礼法）</p> <p>第3回：剣道基本動作と運動あそび②（足さばき）</p> <p>第4回：剣道基本動作と運動あそび③（竹刀操作）</p> <p>第5回：木刀による剣道基本稽古法について</p> <p>第6回：日本剣道形について</p> <p>第7回：基本技</p> <p>第8回：応じ技</p> <p>第9回：技能確認テスト</p> <p>第10回：剣道試合方法および審判規則について</p> <p>第11回：指導法ワークショップ①（技能練習について）</p> <p>第12回：模擬授業①（技能練習について）</p> <p>第13回：指導法ワークショップ②（試合について）</p> <p>第14回：模擬授業②（試合について）</p> <p>第15回：授業全体のまとめと振り返り</p> <p>定期試験：なし</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）</p> <p>中学校学習指導要領解説（平成29年告示 文部科学省）</p>			

その他、授業にて適宜資料を配付する。

学生に対する評価

レポート試験（60％）・技能テスト（40％）

授業科目名： スポーツ実技（ダンス）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：山田（鈴木）悠莉 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、ダンスの基本的活動となる「踊る・観る・創る」を修得するために、表現系ダンスを中心に、特性と技法、指導法に関する理解を、実技を通し深める。多様なテーマ（課題）から即興的に表現する活動から入り、最後にはグループによる作品創作の発表会を立案、実践し、その過程を通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 発達過程に適したダンスの基礎技術を習得し、自らの身体を使って楽しく踊るとともに、ダンスの表現課題や作品の構成方法について実習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション ダンスの特性と内容 第2回：リズム系ダンス（現代的なリズムのダンス） 第3回：表現系ダンス（模倣、テーマを模写する表現） 第4回：表現系ダンス（ものをつかった表現） 第5回：表現系ダンス（2人組を用いた表現） 第6回：表現系ダンス（即興をテーマとした表現） 第7回：リズム系ダンスの指導計画の立案（フォークダンス他） 第8回：表現系ダンス（イメージを手掛かりにした表現 まとめ） 第9回：自由課題による創作①（テーマ設定と構成） 第10回：自由課題による創作②（モチーフの動きを見つける） 第11回：自由課題による創作③（展開、隊形構成） 第12回：自由課題による創作④（指導計画の立案） 第13回：作品発表に向けてのリハーサル 第14回：作品発表 第15回：まとめと振り返り（映像鑑賞を含む） 定期試験は実施しない			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

学校体育実技指導資料第9集 表現運動系及びダンス指導の手引き（文部科学省）

中学校学習指導要領解説（保健体育編） 平成29年 文部科学省

高等学校学習指導要領解説（保健体育編、体育編）平成30年 文部科学省

学生に対する評価

授業における積極的な活動を重視し、活動を振り返るワークシート（40%）、実技テスト及び最終発表の成績（40%）、レポートなど（20%）を総合して評価する。

授業科目名： スポーツ実技(レクリエーション)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：頼住一昭 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 レクリエーションを通して体を動かす楽しみやコミュニケーション作りを養い、生涯スポーツとの関りを深める。			
授業の概要 各種展開されるレクリエーション実技を学び、その習得が生涯にわたって実践できるコミュニケーション作りや健康作りに役立つよう自らも創意・工夫した実技授業展開に努める。			
授業計画 第1回：レクリエーション実技の進め方 第2回：コミュニケーションづくりのいろは 第3回：個人でのレクリエーション・工作 第4回：個人でのレクリエーション・ゲーム 第5回：個人でのレクリエーション・ソング 第6回：ペアでのレクリエーション・工作 第7回：ペアでのレクリエーション・ゲーム 第8回：ペアでのレクリエーション・ソング 第9回：集団でのレクリエーション・工作 第10回：集団でのレクリエーション・ゲーム 第11回：集団でのレクリエーション・ソング 第12回：レクリエーション・ボール運動 第13回：レクリエーション・ウォーキングの実践 第14回：障がい者スポーツとしてのレクリエーション・ゲーム 第15回：障がい者スポーツとしてのレクリエーション・ソング 定期試験			
テキスト 必要としない			
参考書・参考資料等 コミュニケーション力を育むレクリエーション（西村誠編、実生社）			
学生に対する評価			

実技試験（80%）、授業内における小テスト（20%）

授業科目名：スポーツ 実技（アダプテッドス ポーツ）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：小野(小林) 隆
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保 健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツの場面で特にインクルーシブな体験のできる環境設定の重要性について説明できる。			
授業の概要 本科目では、スポーツと健康に関する社会的な理解としてのインクルーシブな環境設定を習得することを目的とする。効果的な運動実践法、生涯スポーツ、運動生活の設計、事故予防への配慮、などの内容を取り上げる。特に共生体育・スポーツ・健康活動の環境について学ぶ。			
授業計画 第1回：授業の目的と内容、自己学習の仕方～体育における「自由」と「自由の相互承認」の原理 第2回：スポーツ・運動の意義と健康との関わり～体育学習における「共生」を考える 第3回：運動と体力及びトレーニングの原則～真正の共生体育＝インクルージョンへ 第4回：運動の安全な行い方と熱中症を予防する具体的方法～アダプテッド・スポーツの視点から 第5回：生活習慣病予防のための運動について～身体リテラシーと豊かなスポーツライフ 第6回：定期的な運動実践の効果及び運動例～「落ちこぼれ」「吹きこぼれ」をつくらない 第7回：インクルーシブ体育の導入～成功に導くための働きかけと互恵的な学び合い 第8回：健康のための運動内容、運動量、運動強度など～ムーブメント教育に基づくデザイン 第9回：運動施設の整備・拡充～共生スポーツの実践者として 第10回：運動プログラム・行事の設定・提供～アダプテーション・ゲームの活用 第11回：運動生活の類型、構造及び運動者行動～幼小中高を通しての共生運動遊び・共生スポーツ 第12回：運動クラブの育成・援助～地域スポーツにおける共生の視点 第13回：健康のための生涯スポーツの理論と実践 第14回：課題のまとめと意見交換 第15回：授業全体の振り返り（学生受講結果アンケートの実施）及び総括 定期試験なし			
テキスト 『真正の「共生体育」をつくる』梅澤秋久・苫野一徳編著、大修館書店			
参考書・参考資料等 授業の中でPDFファイルなどの資料を配付する。			

学生に対する評価

課題への取組の成果及び提出物（50%）、授業への参画態度（30%）、レポート（20%）

授業科目名： スポーツ学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：頼住一昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p><授業のテーマ></p> <p>スポーツとは何か。そして、私たちにどのような影響を及ぼしているのか。さらには、スポーツは今後どのように変化し私たちの生活と携わっていくべきかについて考える。</p> <p><到達目標></p> <p>スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに説明することができる。</p> <p>スポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む姿勢を養う。</p>			
授業の概要			
<p>高齢化社会の日本において今後ますますスポーツへの関わり方が重要となってくる。しかしながら、そもそも、スポーツとはいかなるものかについてはあまり知られていない。そこで、本講義では映像なども使用しながら「スポーツ」の意味について学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：スポーツの概念規定について			
第2回：近代スポーツの誕生			
第3回：近代オリンピックの誕生			
第4回：近代オリンピックから学ぶスポーツと平和			
第5回：近代オリンピックから学ぶスポーツの貢献			
第6回：日本におけるスポーツの受容過程について			
第7回：スポーツと体育の違い			
第8回：アメリカに学ぶスペクテイター・スポーツ			
第9回：eスポーツの誕生とその背景			
第10回：eスポーツに関わる今後の課題			
第11回：障がい者スポーツについて			
第12回：障がい者スポーツの今後の課題			
第13回：スポーツと健康問題			
第14回：スポーツと環境問題			
第15回：スポーツにおける今後の課題			

定期試験あり
テキスト 必要としない
参考書・参考資料等 スポーツ解体新書 続、(玉木正之著、財界展望新社)
学生に対する評価 定期試験 (80%)、授業内における小テスト (20%)

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中尾 綾 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 <テーマ>スポーツ心理学の基礎知識と、スポーツ・体育場面での心理的課題への介入方略を理解する。 <到達目標> 各授業テーマの理論と心理的事象を説明できる。 スポーツにおけるこころと身体のつながりを理解できる。			
授業の概要 本科目ではスポーツ場面で生じるこころの事象を、大きく4つの観点（運動心理学、競技スポーツ心理学、健康スポーツ心理学、パラスポーツの心理学）から解説する。			
授業計画 第1回：スポーツ心理学の歴史について 第2回：運動心理学（1）：運動の制御、 第3回：運動心理学（2）：知覚と認知 第4回：運動心理学（3）：運動の学習と指導 第5回：競技スポーツ心理学（1）：スポーツ選手と心理的支援 第6回：競技スポーツ心理学（2）：スポーツメンタルトレーニングの基礎 第7回：競技スポーツ心理学（3）：スポーツカウンセリングの基礎 第8回：運動心理学と競技スポーツ心理学のまとめ 第9回：健康スポーツ心理学（1）：健康と心理学 第10回：健康スポーツ心理学（2）：スポーツ選手の傷害とバーンアウト 第11回：健康スポーツ心理学（3）：健康行動としてのスポーツ 第12回：パラスポーツの心理学（1）：パラスポーツの基礎的理解 第13回：パラスポーツの心理学（2）：パラアスリートと運動心理学 第14回：パラスポーツの心理学（3）：パラスポーツの心理的効果と心理サポート 第15回：健康スポーツ心理学とパラスポーツ心理学のまとめ 定期試験			
テキスト これから学ぶスポーツ心理学 三訂版（荒木雅信・山本真史（編著））大修館書店			

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

授業科目名： スポーツマネジメント	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：築瀬 歩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツマネジメントの基礎知識を習得し各領域のマネジメント方策について考える 1. マネジメントの知識を身につけ、スポーツ事象を経営学的にとらえることができる。 2. スポーツに関わる組織に合理性と効率を追求した運営方法を考えることができる。 3. 領域に応じたスポーツマネジメントの実践方法を理解し活動を合理的に運営できる。			
授業の概要 マネジメント（経営管理）とは、組織がその目標をより合理的で効率よく達成するために、資源・組織・活動などをコントロールする営みである。また、一般に多くのスポーツ活動は、組織の単位で行われることが多い。本講義は、様々なスポーツ活動がより合理的で効率よく目標を達成するために、そのスポーツ活動に取り組む組織の資源・組織自体・活動をコントロールしてゆくためのノウハウを学ぶことを主目的とする。 マネジメントの対象となるスポーツ活動及び組織は、スポーツをプレーする組織のみに関わらず、観戦を提供する組織、支援する組織等多岐にわたる。「する・みる・支える」といった様々なスポーツ活動をよりよく行い、人々がその成果をより合理的に獲得することを目的としたマネジメントの知識と技能を学び身につけることを目指す。			
授業計画 第1回：スポーツとマネジメント 第2回：スポーツマネジメントの課題と役割 第3回：スポーツマネジメントの主体と活動 第4回：スポーツマネジメントの対象と事業 第5回：スポーツマネジメントの組織と成員 第6回：スポーツ組織におけるリーダーシップ 第7回：スポーツマネジメントとマーケティング 第8回：スポーツマネジメントとイノベーション 第9回：学校とスポーツマネジメント 第10回：競技スポーツチームのマネジメント 第11回：プレイスポーツビジネスのマネジメント 第12回：スポーツ観戦ビジネスのマネジメント 第13回：地域社会とスポーツマネジメント 第14回：企業のスポーツマネジメント 第15回：リフレクションとスポーツマネジメントの展望 定期試験			
テキスト 山下秋二他編『改訂版 スポーツ経営学』大修館書店			

参考書・参考資料等

講義内で適書をその都度提示する

学生に対する評価

学習過程評価50%：各回論述課題45%, レポート5%

学習成果評価50%：定期試験50%

授業科目名： 運動学(運動方法学 含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：縄田亮太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保 健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育 史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 体育において、スポーツにおける様々な動作を理解・指導するために必要なバイオメカニクス の基礎知識を得る。			
授業の概要 講義形式で行う。体育・スポーツにおける様々な動作を運動力学の観点からひも解く。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：バイオメカニクスの基礎 第3回：バイオメカニクスの応用 第4回：「立つ」動作 第5回：「歩く」動作 第6回：「走る」動作 第7回：「跳ぶ」動作（高く跳ぶ） 第8回：「跳ぶ」動作（遠くへ跳ぶ） 第9回：「投げる」動作 第10回：「打つ」動作 第11回：「蹴る」動作 第12回：「泳ぐ」動作 第13回：「滑る」動作 第14回：「回転」動作 第15回：「着地」動作 定期試験			
テキスト 金子 公宥著、スポーツ・バイオメカニクス入門			
参考書・参考資料等 深代 千之ほか著、スポーツ科学の動作			
学生に対する評価			

レポート (70%) 、試験 (30%)

授業科目名： 生理学(運動生理学含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：春日規克 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 運動実技指導、保健指導を行う上での身体構造・機能の基礎と指導に活かす知識を習得する。			
授業の概要 本講では運動発現を可能にしている身体の構造を知り、運動による神経、筋、呼吸、循環、血液、内分泌、体温調節、発育、加齢への影響と身体の適応を学習することで、さらに高い運動能力の発現について考える。			
授業計画 第1回：スポーツを行う身体特性について、運動生理学を学ぶ意義について説明 授業の進め方、評価方法について説明 第2回：脳と神経の役割 情報の伝達、運動の発動と実行・抑制 第3回：運動による神経の適応 運動技術の発達・体力向上と神経機構 第4回：内分泌機能による生体恒常性 ホルモン分泌と自律機能による生体環境の維持 第5回：運動と骨格筋の働き① 骨格筋の構造と機能 第6回：運動と骨格筋の働き② 運動能力と筋でのエネルギー産生機能 第7回：運動と骨格筋の働き③ 骨格筋のトレーニング効果、筋肥大、運動と筋線維タイプ特性 第8回：呼吸循環器系の構造と役割 運動とエネルギー代謝（無・有酸素系エネルギー供給機構） 第9回：運動と呼吸 運動と酸素利用、トレーニングによる呼吸器系の適応 第10回：運動と循環器 循環器系の仕組みと働き、運動と循環応答、循環器系のトレーニング適応 第11回：血液成分、運動と血液動態、高地トレーニングと赤血球 第12回：体温調節の仕組み、運動と体温調節、熱中症とその対応 第13回：運動と栄養 食材・食品・献立・食事と栄養、スポーツ活動と栄養 第14回：運動と発育 発育にともなう身体・体力の変化、トレーニングの適時期 第15回：運動と加齢と運動 加齢・老化と身体機能、加齢・生活習慣と疾病、運動と寿命 定期試験			
テキスト 運動生理学の基礎と発展 フリースペース 春日規克 編			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配付する			
学生に対する評価 授業毎のレポート試験(50%)、定期試験(50%)			

授業科目名： 衛生学及び公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村松愛梨奈 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 衛生学・公衆衛生学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教員や指導者をめざす受講者が、学校内や指導対象者における疾病予防や健康の保持増進だけに着眼するのではなく、健康を守るための社会での取り組み（施策や法律、統計など）や環境による健康への影響について、基礎的な知識を身につけることを目指す。また、本講義を通して、学校における保健の位置づけについても理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>公衆衛生学は、人間集団の健康を現実の生活の中で扱う学問であり、その目的は社会において疾病を予防し、健康増進を図ることにある。本講義では、衛生学・公衆衛生学の基礎的な知識を学修するとともに、学校における疾病予防や健康の保持増進だけに着眼するのではなく、健康を守るための社会での取り組み（施策や法律、統計など）や環境による健康への影響について、基礎的な知識を身につけることを目指している。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：健康の定義、生活と健康を考える</p> <p>第2回：健康問題の変遷、公衆衛生の歴史</p> <p>第3回：保健統計（健康水準、健康指標）</p> <p>第4回：人口動態統計を通して健康を考える</p> <p>第5回：疫学とは</p> <p>第6回：疾病予防と健康管理（疾病リスクと予防医学）</p> <p>第7回：感染症の予防、循環器系疾患の予防</p> <p>第8回：糖尿病・脂質異常症・メタボリックシンドロームの予防</p> <p>第9回：がんの予防、不慮の事故と自殺の防止</p> <p>第10回：環境保健とその評価と対策</p> <p>第11回：地域保健と保健行政</p> <p>第12回：母子保健の課題と行政</p> <p>第13回：産業保健とワークライフバランス</p> <p>第14回：高齢者の保健・医療・介護、認知症と対策</p> <p>第15回：保健医療福祉の制度と法</p> <p>定期試験を実施する</p>			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

参考資料：授業中に適宜資料を配付する。

参考書：シンプル衛生公衆衛生学2024

必要に応じて、オンライン学習システムを用いて事前予習・復習資料を配付する。

学生に対する評価

毎回の出席時に作成する小レポート（50%）、定期試験（50%）

授業科目名： 学校保健Ⅰ（小児保健・精神保健含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下 晋 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の子どもを取り巻く健康問題を解決し、生涯を通じた健康の保持増進に向けて、効果的な保健学習や保健指導法について説明することができる。 2. 生徒の成長発達、関連教科や道徳科・特別活動を踏まえて、体系的な学校保健安全計画を作成することができる 3. 子どもたちの健康、安全確保のため、学校が家庭や地域社会と連携必要性を説明することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、保健体育教師として、中学校における保健教育・保健管理を充実させるとともに、体育実技を通して子ども達に健康の保持増進、並びに学校安全に関連する実践力を身に付けるために必要な専門的知識および技能を修得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：国民の健康と学校保健 第3回：現代的な子どもたちの健康課題 第4回：生活習慣病とその予防 第5回：中学校における保健学習 第6回：生活習慣改善のための様々なアプローチ 第7回：飲酒・喫煙・薬物と健康教育 第8回：発育発達、子供の体力と健康 第9回：学校管理下でのけがの状況と予防 第10回：心の健康問題（背景と心身症状） 第11回：学校における保健管理（健康診断、保健調査、健康観察、健康相談） 第12回：学校で注意が必要なアレルギー疾患 第13回：学校における感染症とその予防 第14回：学校保健安全計画の提案（安全マップ作成） 第15回：学校保健のまとめ 定期試験を実施する</p>			
<p>テキスト：中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編（平成30年告示、文部科学省） その他、必要に応じて資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等 学校保健ハンドブック（ぎょうせい）</p>			

学生に対する評価

定期試験（70%）、毎時のリアクションペーパー（30%）

授業科目名：学校保健 Ⅱ(安全及び救急処置含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村松愛梨奈
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校における保健管理（主体管理と生活管理）、環境管理（安全管理含む）、健康教育（安全教育含む）の具体的な内容を知るとともに、学校保健の意義を理解することを目標とする。</p> <p>従来の健康課題だけでなく、現代の子どもたちに特有の健康課題を把握し、その対応に必要な知識を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校保健は、児童、生徒の健康の保持増進を図り、学校教育の円滑な実施とその成果に資するための学問である。本講義では、学校保健の構造やその意義、法的な位置づけなど、基礎的かつ重要な事項について習得し、それぞれの領域での取り組みの実際について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校保健の考え方と仕組み</p> <p>第2回：健康の評価（保健調査、健康診断、健康観察、健康相談）</p> <p>第3回：学校における感染症とその対応</p> <p>第4回：疾病および健康障害①（心臓疾患、腎臓疾患、学校管理指導表）</p> <p>第5回：疾病および健康障害②（眼科・耳鼻咽喉科疾患、運動器検診）</p> <p>第6回：現代的な健康課題（生活習慣、メタボリックシンドローム、アレルギー疾患）</p> <p>第7回：心の健康問題とその対応</p> <p>第8回：発達や行動上の課題とその対応</p> <p>第9回：学校環境衛生の考え方とその基準</p> <p>第10回：健康教育の意義と保健教育の位置付け</p> <p>第11回：保健教育における重要課題</p> <p>第12回：学校給食に概要と食育</p> <p>第13回：マネジメント・連携（組織活動と学校保健計画）</p> <p>第14回：学校安全（安全教育と安全管理）</p> <p>第15回：救急処置（講義・演習）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			

なし

参考書・参考資料等

参考資料：授業中に適宜資料を配付する。

参考書：学校保健マニュアル改訂10版（南山堂）、学校保健ハンドブック第7次改訂（ぎょうせい）

必要に応じて、オンライン学習システムを用いて事前予習・復習資料を配付する。

学生に対する評価

毎回の出席時に作成する小レポート（50%）、定期試験（50%）。

授業科目名： 教科教育法（体育）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山下 晋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領ならびに解説に示された教育目標及び各運動領域の内容を理解し、体育科における各学年の発達や特性に応じた教科体育の指導ができるようになる。			
授業の概要 学習指導要領ならびに解説に示された各学年の教育目標及び各運動領域の内容を理解する。学習指導案を作成することをおして、体育科の指導方法ならびに運動種目特性を配慮した指導方法を理解する。作成した学習指導案にもとづく模擬授業により体育科における個人の発達や特性に応じた指導方法を身につける。			
授業計画 第1回：小中学校の体育の意義と目標 指導要領と評価の考え方 第2回：小中学校の接続を見通した運動種目毎の指導内容と目標 第3回：小中学校の接続を見通した健康管理と運動 運動と障害、運動と心身の健康（ICTを使った管理） 第4回：体づくり運動 体ほぐし運動、協調性を高める体づくり運動 第5回：器械運動① マット運動 鉄棒運動 模擬授業資料作り 第6回：器械運動② 平均台運動 跳び箱運動 模擬授業資料作り 第7回：陸上運動① 短距離走、ハードル走、バトンリレー 模擬授業資料作り 第8回：陸上運動② 走り幅跳び 走り高跳び 模擬授業資料作り 第9回：球技運動① ゴール型(サッカー、バスケット) 模擬授業資料作り 第10回：球技運動② ネット型(バレー、バドミントン) 模擬授業資料作り 第11回：球技運動③ ベースボール型(野球) 模擬授業資料作り 第12回：少人数グループ毎に作成した学習指導案に基づく模擬授業の実施①（体づくり運動） 第13回：少人数グループ毎に作成した学習指導案に基づく模擬授業の実施②（器械運動） 第14回：少人数グループ毎に作成した学習指導案に基づく模擬授業の実施③（陸上運動） 第15回：少人数グループ毎に作成した学習指導案に基づく模擬授業の実施④（球技運動）とまとめ 定期試験なし			
テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領解説（体育編）』（平成29年告示） 文部科学省『中学校学習指導要領解説（体育編）』（平成29年告示）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配付する			
学生に対する評価 授業毎のレポート（50%）、模擬授業経験を踏まえた指導案（50%）			

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：春日規克 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健体育科の目標および学習内容を理解し、説明することができる。 2. 保健体育科の授業づくりに関する基礎的・基本的事項を理解し、説明することができる。 3. 子どもたちの体力・運動能力向上のため、学校が家庭や地域社会と連携必要性を説明することができる。 			
授業の概要			
<p>本授業では、保健体育教師として、中学校及び高等学校の学習指導要領をもとに、体育科の授業に関する基礎的・基本的事項を学修する。また、体育科教育学における知見を踏まえ、体育の授業づくりについてグループディスカッションを通して、主体的・能動的に学修する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーションとICT機器をつかった学習指導案、評価の作成方法 第2回：中学校（高等学校）保健体育科の目標と内容 第3回：中学校（高等学校）保健体育科の運動領媛 第4回：体育のカリキュラムおよび学習過程 第5回：体育の学習指導および学習形態 第6回：体育の教授方略および教授技術 第7回：体育の学習評価および復業評 第8回：近年の体育授業における微々な試み（ICT機器の活用） 第9回：各領域の理解①（体づくり運動、器械運動）（ICT機器の活用） 第10回：各領域の理解②（陸上競技、水泳）（ICT機器の活用） 第11回：学習指導案の作成①（第9・10回で学修した領域について）（ICT機器の活用） 第12回：各領域の理解③（球技、武道、ダンス）（ICT機器の活用） 第13回：各領域の理解④（体育に関する知識、保健）（ICT機器の活用） 第14回：学習指導案の作成②（第12・13回で学修した領域について）（ICT機器の活用） 第15回：講義のまとめと振り返り 定期試験（期末レポート）</p>			
<p>テキスト：中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編（平成30年告示、文部科学省） その他、必要に応じて資料を配布する。</p>			
参考書・参考資料等			
<p>体育科教育学入門 三訂版（大修館書店） その他、授業中に適宜紹介する。</p>			
学生に対する評価			
定期試験（期末レポート）（50%）、毎時のリアクションペーパー（50%）			

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高嶋 香苗 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学・高等学校での体育科の授業づくりのイメージが描けるようになることを目標にする。具体的には、情報機器を使った保健体育の授業の計画を立てる、授業実践に挑む、学習を評価することなどの保健体育教師としての基礎を身につける。			
授業の概要 保健体育科の授業づくりの基礎は、50分間の授業のイメージが描けることであり、イメージとは、保健体育教師として生徒を的確に導く学習目標と学習内容に精通することである。その理論と実践の具体を理解し、保健体育科の実践指導力を高めていく。			
授業計画 第1回：ガイダンス（講義の目標、情報機器の効果的な活用、受講上の留意点など） 第2回：学習指導要領の戦後の変遷、現行の学習指導要領における保健体育科の改善点 第3回：情報機器を使った体育授業づくりの考え方 第4回：集団行動の指導について 第5回：体育授業づくり：体づくり運動（体ほぐしの運動・体の動きを高める運動） 第6回：体育授業づくり：陸上競技（競走種目） 第7回：体育授業づくり：陸上競技（跳躍種目）、情報機器を使った「体育メモ」の作成1 第8回：体育授業づくり：水泳 第9回：体育授業づくり：球技、情報機器を使った「体育メモ」の作成2 第10回：体育授業づくり：器械運動 第11回：体育授業づくり：ダンス 第12回：体育理論領域の授業づくりの考え方、情報機器を使った「体育理論メモ」の作成 第13回：中学・高校生の心身発達段階、保健・体育評価の基本的な考え方 第14回：体育授業づくり：武道、情報機器を使った「体育メモ」の作成3 第15回：まとめ（学習の総復習、試験の実施に関すること） 定期試験を実施する			
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編			

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する

学生に対する評価

定期試験（60％），毎時間の小レポート（30％），受講姿勢（10％）

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高嶋 香苗 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>中学・高等学校での保健科と体育科の授業づくりのイメージがさらに具体的に描けるようにすることを目標にする。受講生は授業の計画を立てる，授業実践に挑む，学習を評価することなどを自ら考えできるようになることを目指す。そのために保健体育科教育の基礎の充実と発展を学んでいくことに主眼をおく。</p>			
授業の概要			
<p>保健体育科教育Ⅱで学習した体育授業づくりの実践指導力の基礎の上に，情報通信機器を活用した体育の教材づくり理論と実践の具体を学ぶ。さらに保健学習の理論と実践の具体を学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（講義の目標，受講上の留意点など） 第2回：体育授業づくり（教材づくり）の理論（ICTの活用） 第3回：中学校・高等学校の保健体育学習指導要領の目標と内容 第4回：体育の教材づくりの考え方と具体：典型教材（体づくり運動，器械運動）（ICTの活用） 第5回：教材づくりの具体：典型教材（陸上競技，水泳，ダンス）（ICTの活用） 第6回：教材づくりの具体：典型教材（球技，武道）（ICTの活用） 第7回：保健分野・科目「保健」の保健学習，「保健メモ」の作成 第8回：保健学習の模擬授業，保健学習の授業づくり（ICTの活用） 第9回：保健・体育の年間指導計画の作成（中学校・高等学校） 第10回：保健体育の評価と評定の考え方と実際（ICTの活用） 第11回：教育評価の変遷，保健体育の評価規準 第12回：保健・体育科学習指導案作成（ICTの活用） 第13回：保健・体育科学習指導案作成の留意点，前時の指導案の見直し，再構成 第14回：学校における体力づくり，学校教育活動としての部活動指導について，体罰禁止問題等 第15回：まとめ（学習の総復習）</p> <p>定期試験を実施する</p>			
テキスト			
<p>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編</p>			

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する

学生に対する評価

定期試験（60％），毎時間の小レポート（30％），受講姿勢（10％）

授業科目名： 道徳の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本信幸 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・道徳の理論及び指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導要領から「領域としての道徳」が、「特別の教科 道徳」として教科化された背景や意義をとらえることができる。 2 教材開発や指導案分析、模範授業を通して、自ら考え議論する道徳の授業構成や指導方法をとらえることができる。 3 道徳の指導法が他の授業の指導法としても役立つことをとらえ、授業として行う道徳に興味や関心を高めることができる。 4 アクティブラーニングやICTを取り入れた模範授業や指導案分析、学生による実践分析・事例検討などの講義から、学校現場における実際の授業場面の展開手法を学びとる。 5 道徳教育の充実が、自らよりよい生き方を探究するキャリア教育の推進やいじめ防止に通じることをとらえ、その理解を深める。 			
<p>授業の概要</p> <p>今後の道徳の授業は、「考える道徳・議論する道徳」というアクティブラーニングに基づいた授業展開が求められる。そのために、①教材開発力(身近な題材をどう活用するのか)、②授業構成力と展開力(教師の授業力をどう育成するのか)、③授業改善力(教師の感動と感性をどう磨くのか)という3つの力量向上が喫緊の課題であり、これらの力量向上を図ることを授業の主な柱とする。</p> <p>授業では、道徳教育の理論に裏付けられた学校現場で生きる「教科として誕生した道徳」を学ぶ総合的な学習の時間の充実が、①アクティブラーニング(深い学び・対話的な学び・主体的な学び)の推進に相応しい教育活動であること、②全教科、領域の教育活動と横断的総合的に関わること、③自己の生き方を考えるキャリア教育に深くかかわっていること、④課題解決の学び過程とかかわっていること、という4点を理解することが授業のポイントである。</p> <p>道徳教育の充実が、①学級経営の充実に貢献すること、②生徒指導の中核的な時間であること、③いじめ防止に役立つこと、④キャリア教育、人権教育、環境教育などの各種の教育活動に期待されていること、という4点を理解することが授業のポイントである。</p> <p>道徳教育の本質をとらえる15回の授業から、いじめ防止、感性磨き、多様な価値観の受容、よりよい生き方の実現というキャリア教育などの道徳的価値に対する資質能力の育成を図っていることもとらえることができる。</p>			

授業計画

第1回：学校教育全体における道德教育の意義と位置づけ

第2回：道德教育の歴史、現代における道德教育の課題

第3回：心の成長に伴う道德性の発達と現状課題との関係性

第4回：道德教育の指導計画、教育活動全体を通じた指導

第5回：担当授業者による模範授業から学ぶ授業作りと実際の授業の関係（アクティブラーニングと育成すべき資質・能力）

第6回：授業づくりとICTの活用した授業づくり（メディアリテラシーと教材開発の関連性）

第7回：道德科の指導案づくり作成と授業展開の関連（演習による授業作りの基礎基本）

第8回：考え議論する道德にするアクティブラーニングを生かす授業展開（授業展開の手法と評価との関連）

第9回：学生による模擬授業①（小学校低学年）

内容項目・自分自身に関すること（役割演技を活用した模擬授業）

第10回：学生による模擬授業②（小学校低学年）

内容項目・人との関わりに関すること（絵本を活用した模擬授業）

第11回：学生による模擬授業③（小学校中学年）

内容項目・集団や社会との関わりに関すること（役割演技を活用した模擬授業）

第12回：学生による模擬授業④（小学校高学年）

内容項目・自分自身に関すること（自作教材や映像を活用した模擬授業）

第13回：学生による模擬授業⑤（中学校）

内容項目・人との関わりに関すること（エンカウンターを活用した模擬授業）

第14回：学生による模擬授業⑥（中学校）

内容項目・よりよく生きる喜び（自作教材や映像を活用した模擬授業）

第15回：模擬授業の検討と評価、まとめレポートの記述

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科道德編』

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科道德編』

自作プリント配付 毎回、講義内容に合わせて必要な資料を配付

参考書・参考資料等

・文部科学省 道德教育アーカイブ

学生に対する評価

・第1～8回までの授業反省記録（8回×3%）24%、模擬授業の検討と参加度（6回×4%）24%、学習指導案10%、教材教具10%、模擬授業の仕方15%、まとめレポート17%として評価する。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 陳 暁菊
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.憲法の基本原則について理解し、説明することができる。 2.基本的人権の内容と意義を理解し、説明することができる。 3.主要な事件についての判例の結論と理論を理解し、説明することができる。 4.主要な国家の統治制度を理解し、説明することができる。 			
授業の概要			
<p>憲法は、我国の最も重要な基本法であり、幼稚園教諭・保育士には憲法の基本的な知識と法的思考力が求められている。本講義では、公務員試験や実社会で役立つよう、現実社会に生じている憲法的・法律的な出来事や最高裁判例や通説を中心に、人権論や統治論を理解する能力を身につけることを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション／憲法総論 第2回：自然法思想と近代的立憲主義・社会契約説 第3回：社会権と現代的立憲主義 第4回：日本国憲法史 第5回：日本国憲法の成立と三大原理 第6回：日本国憲法前文と平和的生存権 第7回：国民主権と天皇 国家三権の関係 第8回：平和主義 憲法第9条の解釈と裁判 第9回：司法権と憲法保障 第10回：基本的人権の享有主体 第11回：人権保障の限界 第12回：包括的基本権と法の下における平等 新しい人権 第13回：信教の自由と政教分離 目的効果基準 第14回：社会権保障の現状 第15回：まとめの授業と総復習 定期試験なし</p>			
テキスト：西原博史・斎藤一久編著『教職課程のための憲法入門 [第2版]』（弘文堂）			
参考書・参考資料等			
<p>長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選 I II [第7版]』（有斐閣） その他、授業中に適宜紹介する。</p>			
学生に対する評価			
期末レポート（70%）、毎授業時のリアクションペーパー（30%）			

授業科目名： スポーツ健康科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下 晋
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツの果たす健康や体力向上への役割を、教育学、生理学、運動科学など様々な見地から捉え学修する。</p> <p>(1) 健康的な生活習慣の意義を理解し、その内容を説明することができる。</p> <p>(2) 運動が身体に及ぼす効果を理解し、説明することができる。</p> <p>(3) 生涯にわたり健康に過ごすためのスポーツの方法について、考えや意見を示すことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>身体運動を基盤として成立するスポーツは、身体機能の発達や正常化に必須な活動であり、さらにリラックス、リフレッシュといった精神機能、疾病予防にも有用である。本授業では、自身の健康度を認識し、子どもの良好な発育発達に役立つ身体運動の果たす役割や、運動の上達のメカニズム、人々の健康維持・増進やアンチエイジングと運動との関係について学修することで、自己の健康づくりや教育者・保育者としての健康指導能力を養うことを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス／簡易健康度評価</p> <p>第2回：運動能力測定</p> <p>第3回：体力・運動能力の構成要素</p> <p>第4回：柔軟性・筋力を高める運動</p> <p>第5回：健康/運動と身体（骨・筋肉）</p> <p>第6回：運動による消費カロリーの測定</p> <p>第7回：ウォーキングマップ作製</p> <p>第8回：運動と食事のカロリーバランス</p> <p>第9回：食事と栄養バランス</p> <p>第10回：発育期の健康と運動</p> <p>第11回：成人期以降の健康と運動</p> <p>第12回：伝承遊び（運動技能の獲得）</p> <p>第13回：運動技能の上達と脳・神経</p> <p>第14回：ニュースポーツ</p> <p>第15回：授業のまとめと振り返り</p> <p>定期試験なし</p>			
テキスト：なし（必要となる資料は授業時に配付する）			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要となる資料は授業時に紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>・ワークシート（課題「ウォーキングマップ」含む） 70% ・最終レポート 30%</p>			

授業科目名： スポーツ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 辻内智樹
			担当形態： 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種スポーツに関する知識・技能を高めることができる。 2. スポーツの実践からピア評価を利用して仲間と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 自己の健康管理（測定・評価）や体力向上を通して児童・生徒への健康実践の指導ができる。 			
授業の概要			
<p>本授業では様々なスポーツに親しみながら、スポーツ技能の習得や向上だけでなく、グループ活動を通してコミュニケーション能力も修得する。</p> <p>また、積極的なスポーツ活動への参加を通して健康・スポーツに関する知識を深めつつ、自己の健康管理の実践や児童・生徒への健康指導能力を身に付ける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンスと簡易体力測定</p> <p>第2回：バドミントン①（ラケットの使い方とルール）</p> <p>第3回：バドミントン②（ドライブ、ヘアピン、ハイクリア）</p> <p>第4回：バドミントン③（サーブとシングルスゲーム）</p> <p>第5回：バドミントン④（ダブルスゲーム）</p> <p>第6回：バドミントン⑤（大会企画・運営）</p> <p>第7回：バレーボール①（アンダーハンドパスとオーバーハンドパス）</p> <p>第8回：バレーボール②（ルールとサーブ、スパイク）</p> <p>第9回：バレーボール③（ゲーム チーム別対抗戦）</p> <p>第10回：ウォーキングアプリを使用した運動レポート</p> <p>第11回：バスケットボール①②（レイアップ、ゲーム）</p> <p>第12回：バスケットボール③（3on3 ディフェンスとリバウンド）</p> <p>第13回：バスケットボール④（戦術とゲーム）</p> <p>第14回：バスケットボール⑤（ゲーム チーム別対抗戦）</p> <p>第15回：まとめ（スポーツ大会の企画・運営）</p> <p>定期試験なし</p>			
テキスト：なし（必要となる資料は授業時に配付する）			
参考書・参考資料等			
各種スポーツ関連の書籍（資料）や動画を授業時に紹介する。			
学生に対する評価			
授業時のグループ評価（ピア評価）50% 課題レポート30% 実技能力向上率20%			

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 清水万里子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語による基礎的なコミュニケーション能力の獲得を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や行動を簡潔な英語でスピーチできる。 ・50～100語程度の英文を理解できて話すことができる。 ・英語スピーチの原稿を、英借文を利用して仕上げることができる。 ・相手に話すときの姿勢（posture）を習得する。 ・ICTツールを利用するノウハウを知る。 			
<p>授業の概要</p> <p>英語4技能を活用し、身近なテーマを題材にして英語によるコミュニケーション活動を行える力の獲得をめざす。テキストの内容やテーマを選んで英語スピーチの原稿を作成できる力、簡単な英語スピーチができる力を獲得する。また、ICTツールを教育利用できる力を獲得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、英語スピーチの方法、英語コミュニケーションワーク 第2回：褒めことば・感動ことばのリスト作成。ICTツールの説明、すごろくトーク in English 第3回：My Profile 1 英借文を参考に原稿を作成、ペアになってチェックする。 第4回：My Profile 2 ペア練習、ビデオ録画してピア評価しあう。 第5回：My Favorite Foods 1 英借文を参考に原稿を作成、ペアになってチェックする。 第6回：Unit2 My Favorite Foods 2 ペア練習、ビデオ録画してピア評価しあう。 第7回：Unit3 My Daily Life 1 英借文を参考に原稿を作成、ペアになってチェックする。 第8回：Unit3 My Daily Life 2 ペア練習、ビデオ録画してピア評価しあう。 第9回：Unit4 My Birthday 1 英借文を参考に原稿を作成、ペアになってチェックする。 第10回：Unit4 My Birthday 2 ペア練習、ビデオ録画してピア評価しあう。 第11回：Unit5 My Dream 1 英借文を参考に原稿を作成、ペアになってチェックする。 第12回：Unit5 My Dream 2 ペア練習、ビデオ録画してピア評価しあう。 第13回：英語スピーチ原稿準備・練習 ビデオ録画（30秒） 第14回：英語スピーチ原稿準備・練習 英語スピーチ 発表（Show & Tell） 第15回：まとめテストと振り返り 定期試験なし</p>			
<p>テキスト：基礎からのクイック・リスポンズ Say It Aloud! For Better Listening & Speaking Skills 三修社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>英語スピーチのための補助資料を適宜配付する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>ビデオ映像作成課題50%、英語スピーチ原稿20%、英語スピーチ30%</p>			

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 清水万里子
			担当形態： 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
英語4技能の実力を確実なものとするを目的とする。 ・基本英語構文、英会話や英作文のための知識量のストックを増やす。 ・400語程度の英文を速読即解できる。 ・各種英語検定試験のリスニング問題への対応力を身に着ける。 ・リーディングの内容をクラスの中で相互に説明できる			
授業の概要			
英語表現力を支える構文力・作文力・文法力を徹底的に見直し、身に着けることを目指す。英語長文を読み解く力を重視し、英語を多読する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・英語力確認テスト Unit 1 Canada: Natural Beauty Abounds (1) 第2回：Unit 1 Canada: Natural Beauty Abounds (2) リスニングテスト 第3回：Unit 2: Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize (1) 会話 第4回：Unit 2: Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize (2) リスニングテスト 第5回：Unit 1.2の振り返りとグループ発表 第6回：Unit 3: Germany: Leaders in Protecting Our Environment (1) 会話 第7回：Unit 3: Germany: Leaders in Protecting Our Environment (2) リスニングテスト 第8回：Unit 4: Turkey: Finish Up Your Coffee (1) 会話 第9回：Unit 4: Turkey: Finish Up Your Coffee (2) リスニングテスト 第10回：Unit 3,4の振り返りとグループ発表 第11回：Unit 5: Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans (1) 会話 第12回：Unit 5: Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans (2) リスニングテスト 第13回：Unit 6: Israel: A Land of Tradition and Technology (1) 会話 第14回：Unit 6: Israel: A Land of Tradition and Technology (2) リスニングテスト 第15回：まとめテストと全体の振り返り 定期試験なし			
テキスト：Guess What?! Intercultural Surprises 南雲堂			
参考書・参考資料等 英語リーディングやリスニングの補助資料を適宜配付する。			
学生に対する評価 リスニングテスト20%、発表20%、英会話テスト20%、まとめテスト40%			

授業科目名： 情報処理 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 酒井 純
			担当形態： 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程で求められる情報処理機器の基本操作技法を習得し、ワープロ、表計算などのアプリを用いることができる。 ・情報セキュリティーや情報倫理を理解して、インターネット上のアプリやサービスを活用できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>情報処理機器の操作技法を理解し、コンピュータを用いて文書を作成する技法と保育・幼児教育で用いるデータを分析するための手法を理解することを目的とする。また、ICT環境をとりまく状況や情報モラルについて理解することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 学修のすすめ方 第2回：PCの基本操作 ファイルの管理 PCで電子メール 第3回：キーボードと日本語入力 タッチタイピング 第4回：情報モラルと著作権 第5回：引用と剽窃 第6回：ワープロソフト(1) 基本的なレポートの書き方 第7回：ワープロソフト(2) 図表の作成と印刷 第8回：情報セキュリティーと倫理・SNSでの情報発信 第9回：表計算入門(1) 基本的な表の作成 第10回：表計算入門(2) 計算式の利用 第11回：表計算入門(3) グラフの作成 第12回：プレゼンテーションソフト(1) プレゼンテーションの目的と構成 第13回：プレゼンテーションソフト(2) プレゼンテーションの作成 第14回：表計算・ワープロソフトを利用した総合課題の作成 第15回：タイピングの確認 ふりかえりレポートの作成 定期試験なし</p>			
テキスト：『情報リテラシー アプリ編 Windows 11/Office 2021対応』（FOM出版, 2022）			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各回の課題の計75%、タイピング10%、総合課題10%、ふりかえりレポート5%</p>			

授業科目名： 情報処理Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 酒井 純
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理機器を用いて、教育のための資料を作成することができる。 ・情報処理機器を用いて、子どもたちの想像力を伸ばす電子教材を作成することができる。 			
授業の概要			
「情報処理Ⅰ」で学んだ情報処理機器の基本操作をさらに応用させて、教育の現場でICTを利用した教材の作成や活用ができる技術と知識を修得することを目的とする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 情報処理Ⅰの復習			
第2回：ワープロソフト(1) 詳細な書式設定、長文の編集			
第3回：ワープロソフト(2) 文章の校閲			
第4回：ファイル共有と共同作業			
第5回：表計算ソフト(1) 基本的な関数の利用			
第6回：表計算ソフト(2) データベース機能の利用			
第7回：Canvaによる学校だよりの作成			
第8回：コンピューターの基礎知識 ICTが社会と教育に与える影響			
第9回：プレゼンテーション(1) アウトライン、ストーリー、リハーサル			
第10回：プレゼンテーション(2) 情報デザインとプレゼン			
第11回：外部データを用いたレポートの作成準備（総合課題）			
第12回：児童書紹介プレゼンテーション(1) プレゼン作成			
第13回：児童書紹介プレゼンテーション(2) プレゼンテーション発表			
第14回：児童書紹介グループでのプレゼンテーション(3) 講評とまとめ			
第15回：全体の振り返りとレポートの作成 タイピングの確認			
定期試験なし			
テキスト：『情報リテラシー アプリ編 Windows 11/Office 2021対応』（FOM出版, 2022）			
参考書・参考資料等			
授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価			
各回の課題の計50%、グループ発表30%、タイピング5%、総合課題10%、ふりかえりレポート5%			

授業科目名：教育学概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中村仁志 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等を理解し、それらをふまえて関連する教育事象について説明できる。</p> <p>○教育の思想および歴史を理解し、それらをふまえて関連する教育事象について説明できる。</p> <p>○教育の制度を理解し、それをふまえて関連する教育事象について説明できる。</p> <p>○教育実践の様々な取り組みを理解し、それをふまえて関連する教育事象について説明できる。</p> <p>○生涯学習社会における教育の現状と課題を理解し、それらをふまえて関連する教育事象について説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育の意義と目的、思想、歴史、制度、実践および教育を成り立たせる諸要素について学び、教育事象を教育学的な視点から考える力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の意義</p> <p>第2回：教育の目的</p> <p>第3回：乳幼児期の教育の特性</p> <p>第4回：教育と子ども家庭福祉の関連性</p> <p>第5回：人間形成と家庭・地域・社会等との関連性</p> <p>第6回：諸外国の教育の思想と歴史</p> <p>第7回：日本の教育の思想と歴史</p> <p>第8回：子ども観と教育観の変遷</p> <p>第9回：教育制度の基礎</p> <p>第10回：教育法規・教育行政の基礎</p> <p>第11回：諸外国の教育制度</p> <p>第12回：教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価）</p> <p>第13回：教育実践の多様な取り組み</p> <p>第14回：生涯学習社会と教育</p> <p>第15回：現代の教育課題</p> <p>定期試験 なし</p>			
テキスト			

適宜資料を配付する

参考書・参考資料等

- ・井藤元編『ワークで学ぶ教育学〔増補改訂版〕』（ナカニシヤ出版、2020年）
- ・福元真由美編『はじめての子ども教育原理』（有斐閣、2017年）

学生に対する評価

毎回の授業で提出する小レポート…60%、最終レポート…40% 計100%

授業科目名：教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中村仁志 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○公教育の目的からみた教員の存在意義、教職の職業的特徴について理解し、具体的な事例を挙げながら説明できる。</p> <p>○教職観の変遷からみた今日の教員に求められる役割、今日の教員に求められる基礎的な資質能力について理解し、具体的な事例を挙げながら説明できる。</p> <p>○教員の職務、教員研修の意義と位置付け、教員の服務上・身分上の義務と身分保障について理解し、具体的な事例を挙げながら説明できる。</p> <p>○チーム学校運営への対応について理解し、具体的な事例を挙げながら説明できる。</p> <p>○教職について学修したことを基に、自分の理想の教員像について説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代社会における教職の重要性の高まりをふまえ、教職の意義、教員の役割、教員の職務内容、チーム学校運営への対応について学び、教職への意欲を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：公教育の目的からみた教員の存在意義</p> <p>第2回：教職の職業的特徴</p> <p>第3回：教職観の変遷からみた今日の教員に求められる役割</p> <p>第4回：今日の教員に求められる基礎的な資質能力</p> <p>第5回：教員の職務① 教科の授業の体験</p> <p>第6回：教員の職務② 教科の授業における子どもへの指導のポイント</p> <p>第7回：教員の職務③ 学級経営に関わる活動の体験</p> <p>第8回：教員の職務④ 学級経営における子どもへの指導のポイント</p> <p>第9回：教員の職務⑤ 子どもへの指導以外の校務</p> <p>第10回：教員研修としての授業研究の体験</p> <p>第11回：教員研修の意義と位置付け</p> <p>第12回：教員の服務上・身分上の義務と身分保障</p> <p>第13回：チーム学校運営への対応① 校内の人との連携</p> <p>第14回：チーム学校運営への対応② 校外の人との連携</p> <p>第15回：自分の理想の教員像の発表</p> <p>定期試験 なし</p>			
テキスト			

適宜資料を配付する

参考書・参考資料等

・井藤元編『ワークで学ぶ教職概論』（ナカニシヤ出版、2017年）

学生に対する評価

毎回の授業で提出する小レポート50%、レポート30%、自分の理想の教員像の発表…20% 計
100%

授業科目名：教育経営論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：矢藤誠慈郎 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○公教育の目的からみた学校経営、ビジョンと教育目標の設定、PDCA、学級経営、ミドルリーダー、教職員の連携・協働からみた園内研修・校内研修、学校外の関係者・関係機関との連携・協働の意義を理解し、それらの方法について説明できる。</p> <p>○地域との連携を基とする開かれた学校づくりの経緯、地域との連携・協働による学校教育活動の意義を理解し、それらの方法について説明できる。</p> <p>○学校安全の必要性を理解し、学校における安全管理と安全教育の取り組みについて説明できる。</p> <p>○学校経営について学修したことを基に、園内研修・校内研修を計画し、実践することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>公教育の目的、ビジョン、教育目標、PDCA、学級経営、ミドルリーダー、教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働、地域との連携・協働、学校安全について理解を深め、学校経営の意義と方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：公教育の目的からみた学校経営の意義</p> <p>第2回：学校経営におけるビジョンの設定の意義と方法</p> <p>第3回：学校経営における教育目標の設定の意義と方法</p> <p>第4回：学校の教育活動の年間の流れと学校評価にみるPDCAの意義</p> <p>第5回：学級経営の考え方と方法</p> <p>第6回：学校経営におけるミドルリーダーの役割</p> <p>第7回：教職員の連携・協働からみた園内研修・校内研修の意義</p> <p>第8回：園内研修・校内研修の方法と事例</p> <p>第9回：学校外の関係者・関係機関との連携・協働の意義と方法</p> <p>第10回：地域との連携・協働による学校教育活動の意義と方法</p> <p>第11回：地域との連携を基とする開かれた学校づくりの経緯</p> <p>第12回：学校安全の必要性</p> <p>第13回：学校における安全管理と安全教育の取り組み</p> <p>第14回：園内研修・校内研修の計画</p> <p>第15回：園内研修・校内研修の実践</p>			

定期試験 なし
テキスト 適宜資料を配付する
参考書・参考資料等 ・村川雅弘『ワークショップ型教員研修 はじめの一步一わかる！使える！理論・技法・課題 ・子ども・ツール・プラン77一』（教育開発研究所、2016年） ・坂田仰・河内祥子『イラストと設題で学ぶ 学校のリスクマネジメント ワークブック』（ 時事通信社、2017年）
学生に対する評価 毎回の授業で提出する小レポート40%、レポート30%、園内研修・校内研修の計画と実践30% 計100%

授業科目名：教育と発達 の心理学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：長谷守紘 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を説明することができる。 2. 心理学的なアプローチについて理解し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の方法を考え、意見を述べることができる。 3. 主体的な学習を支える指導の基礎となる考え方を理解し、集団や個に応じた支援を計画することができる。 			
授業の概要			
<p>広く教育に関連する事柄について心理学的な見地から考え、教育場面において必要とされる心理学的な知見と技術について修得することを目的とする。特に乳児期から青年期の発達の特徴や学習の仕組みについて理解し、保育・教育場面における児童、生徒の実態を知り、将来教育者として活用できる知識や技術を身に付ける。</p>			
授業計画			
第1回：教職で心理学を学ぶ意義			
第2回：発達の原理			
第3回：乳児期の発達			
第4回：幼児期の発達			
第5回：児童期の発達			
第6回：青年期の発達			
第7回：中間まとめ：発達と教育			
第8回：学習の理論			
第9回：学習と記憶			
第10回：動機づけ			
第11回：学力と知能			
第12回：学習指導法			
第13回：教育評価			
第14回：学級集団づくり			
第15回：最終まとめと今後の課題			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
柏崎秀子 編『教職ベーシック発達・学習の心理学 [新2版]』（北樹出版、2024）			

参考書・参考資料等

小椋たみ子・遠藤利彦・乙部貴幸 著『赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育第3巻 言葉・非認知的な心・学ぶ力』（中央法規出版、2019）

渡辺弥生・西野泰代 編『ひと目でわかる発達 誕生から高齢期までの生涯発達心理学』（福村出版、2020）

学生に対する評価

提出物60%、まとめ課題40%、計100%

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：白垣 潤 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援教育における幼児・児童・生徒に関する基本的知識を理解することができる。</p> <p>特別支援教育における幼児・児童・生徒に対する対応についてその態度を修得することができる。</p> <p>特別支援教育における幼児・児童・生徒に対する対応方法に関する技術を修得し、対応することができる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の目的、到達目標、計画・内容、評価についてのガイダンス）</p> <p>第2回：特別支援教育とは（基本理念、関連法案、制度）</p> <p>第3回：ルーツの異なる幼児・児童、貧困等による教育的ニーズの現状と課題</p> <p>第4回：特別支援教育の実際1（視覚障害、聴覚障害）</p> <p>第5回：特別支援教育の実際2（肢体不自由、病弱）</p> <p>第6回：特別支援教育の実際3（発達障害）</p> <p>第7回：特別支援教育の実際4（情緒障害）</p> <p>第8回：障害児のアセスメント1（面接・観察）</p> <p>第9回：障害児のアセスメント2（心理検査）</p> <p>第10回：障害児のアセスメント（性格・適性検査）</p> <p>第11回：通常学級における具体的な支援、学級経営上の支援計画と自立活動</p> <p>第12回：個別の教育的ニーズに対する地域や関係機関との連携</p> <p>第13回：早期療育支援システム</p> <p>第14回：教育的ニーズのある幼児・児童への場面に応じた支援</p> <p>第15回：まとめ（教育者として特別支援教育に邁進していくために）</p> <p>定期試験なし</p>			

テキスト

特別支援教育 松浪健四郎・藤田主一・三好仁司監修、斎藤雅英・宇部弘子・市川優一郎・長沼俊夫・舟橋厚・村井敬太郎編集 中山書店

978-4-521-74890-0

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業毎に行われる小テスト90%、期末レポート10%、計100%

授業科目名：カリキュラム論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中村仁志 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○学習指導要領と関連付けてカリキュラムを編成する意義について説明できる。</p> <p>○カリキュラムの社会的な役割や機能、カリキュラム編成の基本原理について説明できる。</p> <p>○教科等横断的な視点、単元・学期・学年をまたいだ視点、幼小連携の視点、学校種ごとの特質と関連付けてカリキュラム編成の方法について説明できる。</p> <p>○カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価の意義を理解し、それらの方法について説明できる。</p> <p>○カリキュラムについて学修したことを基に、学校のカリキュラムを作成することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領との関係、教科等横断的な視点、単元・学期・学年をまたいだ視点、幼小連携の視点、学校種ごとの特質をふまえ、各学校の実情に合わせたカリキュラムの編成およびカリキュラム・マネジメントの意義と方法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：カリキュラムを編成する意義</p> <p>第2回：学習指導要領の位置付けとカリキュラム編成の目的</p> <p>第3回：学習指導要領の改訂の変遷とその社会的背景</p> <p>第4回：カリキュラムの社会的な役割や機能</p> <p>第5回：カリキュラム編成の基本原理</p> <p>第6回：教科等横断的な視点からのカリキュラム編成の方法</p> <p>第7回：単元・学期・学年をまたいだ視点からのカリキュラム編成の方法</p> <p>第8回：幼小連携の視点からのカリキュラム編成の方法</p> <p>第9回：小学校におけるカリキュラム編成の方法</p> <p>第10回：中学校におけるカリキュラム編成の方法</p> <p>第11回：高等学校におけるカリキュラム編成の方法</p> <p>第12回：カリキュラム・マネジメントの意義と方法</p> <p>第13回：カリキュラム評価の考え方と方法</p> <p>第14回：学校のカリキュラムの作成</p> <p>第15回：作成した学校のカリキュラムの発表会</p> <p>定期試験 なし</p>			
テキスト			

適宜資料を配付する

参考書・参考資料等

- ・ 奈須正裕・坂野慎二編著『教育課程編成論【新訂版】』（玉川大学出版部、2019年）
- ・ 文部科学省「幼稚園教育要領（平成29年告示）」
- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」
- ・ 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」
- ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」

学生に対する評価

毎回の授業で提出する小レポート50%、レポート30%、作成した学校のカリキュラム20% 計100%

授業科目名： 総合的な学習の時間・ 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本信幸・長 谷守紘 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習（探究）の時間の指導法 ・特別活動の指導法 		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導要領から、総合的な学習の時間における内容の取扱をとらえ、アクティブラーニングを推進させる活動とのかかわりの深さを理解し説明できる。 2 学習指導要領から、特別活動に期待されていることや特別活動の充実により、人間関係形成、社会参画、自己実現への資質と能力を育成できることをとらえ、その理解を深める。 3 アクティブラーニングやICTを取り入れた担当教員による模範授業や指導案分析、学生による実践分析・事例検討などの講義から、学校現場における実際の授業場面の展開手法を獲得する。 4 子どもの実態把握や自治的な活動を行うことが、いじめや不登校の防止、望ましい集団形成、学力の向上に通じることを理解し説明できる。 5 総合的な学習の時間と特別活動の充実が、自らよりよい生き方を探究するキャリア教育の推進に通じることをとらえ、その理解を深める。 			
<p>授業の概要</p> <p>総合的な学習の時間の充実が、①アクティブラーニング（深い学び・対話的な学び・主体的な学び）の推進に相応しい教育活動であること、②全教科、領域の教育活動と横断的総合的に関わること、③自己の生き方を考えるキャリア教育に深くかかわっていること、④課題解決の学び過程とかかわっていること、という4点を理解することが授業のポイントである。</p> <p>特別活動の充実が、①学級経営の充実に貢献すること、②生徒指導の中核的な時間であること、③道徳教育に役立つこと、④キャリア教育、人権教育、環境教育などの各種の教育活動に期待されていること、という4点を理解することが授業のポイントである。</p> <p>総合的な学習の時間では、問題の解決や探究活動の過程をとらえる授業を行う。その中で、図書や情報の課題を探究するために、模範授業、実践分析、事例検討やICT活用による授業展開などを授業内に取り入れる。</p> <p>特別活動4分野（学級活動、委員会活動、クラブ活動、学校行事）のうち、学級活動を重視する。学級活動の充実が、①いじめ防止につながることで、②学力向上につながることで、③自己実現を育むことになる。その中で、学級活動における自治的活動内容と生活指導的内容をとらえるための、模範授業、実践分析や事例検討、指導案分析などを授業内に取り入れる。</p> <p>総合的な学習の時間と特別活動の本質をとらえる授業から、感性磨き、多様な価値観の受容、よりよい生き方の実現というキャリア教育の資質能力の育成を図っていることもとらえることができる。</p>			

授業計画

- 第1回：学校教育全体からとらえた総合的な学習の時間の教育的意義（アクティブラーニングの展開と横断的総合的な学習）（山本）
- 第2回：学習指導要領からとらえる総合的な学習の時間の基礎基本（学び方とものの考え方）（山本）
- 第3回：総合的な学習の時間の実践分析と事例検討①（小学校における実践と事例）（山本）
- 第4回：総合的な学習の時間の実践分析と事例検討②（中学校・高校における実践と事例）（山本）
- 第5回：総合的な学習の時間の展開の仕方①（図書資料を活用したアクティブラーニングと育成すべき資質・能力）（山本）
- 第6回：総合的な学習の時間の展開の仕方②（情報を課題としたアクティブラーニングと育成すべき資質・能力）（山本）
- 第7回：学生による総合的な学習の時間の模擬授業（指導計画と授業展開）（山本）
- 第8回：教員による総合的な学習の時間の模範授業（山本）
- 第9回：総合的な学習の時間の評価方法、留意点とまとめ（山本）
- 第10回：特別活動の基礎基本（学級活動、児童生徒会活動、クラブ活動、学校行事の各内容）（長谷）
- 第11回：学級活動（1）指導のあり方と実践分析（展開方法と育成すべき資質・能力）（長谷）
- 第12回：学級活動（2）におけるキャリア形成の指導のあり方と実践分析（展開方法と育成すべき資質・能力）（長谷）
- 第13回：児童会活動、クラブ活動、学校行事のねらいと展開と評価（実践事例分析）（長谷）
- 第14回：学生による模擬授業（学級レクリエーションの体験活動）（長谷）
- 第15回：今日的課題をテーマとした授業方法、指導案分析、授業展開とまとめ（長谷）

定期試験

テキスト「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」平成 29 年告示 文部科学省
「小学校学習指導要領解説 特別活動編」平成 29 年告示 文部科学省
「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」平成 29 年告示 文部科学省
「中学校学習指導要領解説 特別活動編」平成 29 年告示 文部科学省

自作プリント配付 毎回、講義内容に合わせて必要な資料を配付

参考書・参考資料等

- ・「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」文科省・国立教育政策研究所監修
- ・「小学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間」 田村学・ぎょうせい

学生に対する評価

- ・授業後の小テスト（3%×15回）45%、レポート15%、定期テスト40%として評価する。

授業科目名：教育の方法と技術（ICT活用を含む）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 向達 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちに求められる資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる。 ○指導案・指導計画の基本的な要素と作成の流れを理解し、実際に設計できる。 ○子どもの学びを支援する教育技術と指導方法を身につけ、活用することができる。 ○ICTを活用する意義や理論を理解し、学習指導や校務に位置付けて説明できる。 ○情報活用能力を育成する意義を理解し、その指導方法を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での教育技術と指導方法、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報活用能力を育成するための指導方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 子どもたちに育みたい資質・能力</p> <p>第2回：ICT活用のあり方 ICTを活用する意義と理論を学ぶ</p> <p>第3回：教育者に求められる教育方法の工夫 教育方法の基礎理論と授業の構成要件を学ぶ</p> <p>第4回：授業づくりのプロセス 設計する授業テーマと学習目標を考える</p> <p>第5回：学習評価 学習の目標・指導・評価の意義を考える</p> <p>第6回：教育の技術 授業の実践に必要な基礎的な技術</p> <p>第7回：指導の方法 ICTを活用した授業方法・情報モラルを育成するための指導方法、効果的な教材作成と提示</p> <p>第8回：多様な子どもの学びを支援する方法 子どものニーズに応じたICTの活用とその指導方法</p> <p>第9回：学習指導案作り① 学習目標の設定方法</p> <p>第10回：学習指導案作り② 深い学びに導くための教材研究</p> <p>第11回：学習指導案作り③ 主体的・対話的な学習の展開とICT・デジタルコンテンツの活用方法</p> <p>第12回：学習指導案作り④ 教育データの活用方法と評価計画の作成</p> <p>第13回：情報活用能力の育成 各教科の特性に応じた指導方法、教科横断的視点からみた指導方法</p> <p>第14回：ICTに関する外部機関との連携、校務の効率化、校内のICT環境の在り方を考える</p> <p>第15回：模擬授業 ICTを活用した模擬授業と振り返り 全体のまとめ</p> <p>定期試験 なし</p>			

テキスト

Web Campusにレジユメを随時掲載する

参考書・参考資料等

- ・ 文部科学省「平成29年改訂幼稚園教育要領」
- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」
- ・ 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」
- ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」

学生に対する評価

小課題40%、レポート30%、学習指導案30% 計100%

授業科目名： 生徒・進路指導の理論 と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本信幸・長 谷守紘・石嶺ちづる 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個性を持つ児童・生徒一人ひとりを理解するための生徒・進路指導のあり方の基礎を身につける。 2 教師の専門職性を踏まえて、児童・生徒の理解と援助の方法について教育相談の手法をふまえ、日々接することができる。 3 教師として学校で教育できることとその限界を理解し、カウンセラー等外部機関の援助を求める必要がある場合の望ましい体制をとらえることができる。 4 アクティブラーニングや ICT を取り入れた事例検討や場面を設定した指導方法の講義から、学校現場における実際の学校場面の教育相談の手法を学びとる。 5 生徒・進路指導の充実が、自らよりよい生き方を探究するキャリア教育の推進やいじめ防止などの問題行動を行わない生活態度の育成に通じることをとらえ、その理解を深める。 			
<p>授業の概要</p> <p>個性を持つ児童・生徒一人ひとりを理解するための基礎を身につける。教師の専門職性を踏まえ、児童・生徒理解を深め、援助の方法について知ることを主に事例検討や場面指導を通じて学んでいく。</p> <p>生徒指導の観点から教員採用試験の面接で実施されている場面指導の演習から、どのように回答すればよいのかを知る。生徒・進路指導の充実が、①学級経営の充実に貢献すること、②生徒指導の中核的な時間であること、③いじめ防止に役立つこと、④キャリア教育、人権教育、環境教育、道徳教育などの各種の教育活動に期待されていること、という4点を理解することが授業のポイントである。</p> <p>生徒指導提要の改訂により、性的マイノリティやインターネットに関わる問題、不登校の増加などの喫緊の課題がクローズアップされている。これを受け、生徒指導の2軸3類4層の生徒指導の分類から諸問題にアプローチする指導法を学んでいく。</p> <p>生徒・進路指導の本質をとらえる15回の授業から、いじめ防止、感性磨き、多様な価値観の受容、よりよい生き方の実現というキャリア教育に対する資質能力の育成を図り、自己指導能力の向上に通じていることをとらえる。</p>			

授業計画

- 第1回：オリエンテーション、生徒・進路指導の目標と意義（生徒指導と進路指導の方向性）（長谷）
- 第2回：生徒・進路指導、キャリア教育の具体的な展開方法（児童・生徒の理解と接し方）（長谷・石嶺）
- 第3回：生徒指導の教育課程における展開方法（道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動との関連）（長谷）
- 第4回：学校における生徒指導体制あり方（生徒指導における教育相談の重要性）（長谷）
- 第5回：教育問題の事例検討と場面指導演習（いじめ・不登校・問題行動の事例についての対応）（山本）
- 第6回：生徒指導におけるICTに関わる課題（メディアリテラシーを教育相談や授業で高める方法）（長谷）
- 第7回：生徒指導のケース研究と検討（いじめ問題の対応）（山本）
- 第8回：生徒指導のケース研究と検討（暴力行為・少年非行・不登校の未然防止の対応）（山本）
- 第9回：生徒指導のケース研究と検討（児童虐待・自殺未然防止の対応）（山本）
- 第10回：進路指導のケース研究と検討（自己評価とポートフォリオの活用）（石嶺）
- 第11回：進路指導のケース研究と検討（職業体験とカリキュラムマネジメント）（石嶺）
- 第12回：多様な背景をもつ児童生徒への生徒指導（性的マイノリティへの対応、発達障害に関する理解と対応）（長谷）
- 第13回：保護者との関わりについて（クレームや虐待の対応、関係機関との連携）（山本）
- 第14回：進路指導とキャリア教育の意義と役割（キャリア教育のあり方と展開方法）（石嶺）
- 第15回：生徒・進路指導の本質（生き方と自己指導力の重要性）、まとめレポート作成（長谷・石嶺）

テキスト 文部科学省『生徒指導提要』（東洋館出版）

参考書・参考資料等

- ・神村栄一著『令和型不登校』（ぎょうせい）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』（東洋館出版社 2018）

学生に対する評価

- ・1～14回の授業に関する課題への取組（3%×14回）42%、場面指導演習の充実度18%、まとめのレポート40%の合計100%として評価する。

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉村 譲 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校等における教育相談の意義と基礎的な理論を理解する。 ・教育相談の基礎的な知識、技術を身に付けるとともに、校内および地域との連携の必要性を理解する。 ・子どもの発達段階や課題に応じた教育相談を理解し、家族と子どもを支えるかかわりができるようにする。 			
<p>授業の概要</p> <p>心理臨床及び相談援助の基礎知識や技法を学び、学校などで児童・生徒・保護者に関わる際に必要な教育相談の基礎を学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：相談援助の基本的姿勢－相談員に求められるカウンセリングマインド－</p> <p>第3回：心理テストについて－発達検査・知能検査・性格検査等－</p> <p>第4回：気になる子について考える－発達障害を中心にして－</p> <p>第5回：対象者を理解するために（1）－基本的視点－</p> <p>第6回：対象者を理解するために（2）－状況をとらえる－</p> <p>第7回：対象者を理解するために（3）－成育歴を考える－</p> <p>第8回：家族を理解するための基本的視点</p> <p>第9回：相談過程を理解する－アセスメント、プランニング、インターベンションを中心に－</p> <p>第10回：学校内および関係機関との連携について</p> <p>第11回：ロールプレイ（1）－児童・生徒との相談－</p> <p>第12回：ロールプレイ（2）－保護者との相談－</p> <p>第13回：事例検討－対応の難しい事例について考える－</p> <p>第14回：相談員に生じる気持ちについて考える</p> <p>第15回：教育相談の理論と方法についての振り返りとまとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>子どもの理解と保育・教育相談（小田 豊・秋田 喜代美 編、株式会社みらい）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業の中で適宜紹介する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>受講態度・取り組み姿勢 30%、試験 30%、ミニレポート・ワークシート 40%、計 100%</p>			

シラバス：教職実践演習

授業科目名：教職実践演習 (小・中・高)	単位数：2単位	担当教員名：蜂須賀渉、長谷守紘
科 目	教育実践に関する科目	
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握
		○
		学校現場の意見聴取
		○
受講者数	20人	
教員の連携・協力体制	<p>毎授業とも、原則として前半で教員1名が講義を行い、後半でグループに分かれて少人数による演習を行う。各学生を教員が様々な観点から評価し、学生それぞれの長所を伸ばすとともに、不足している箇所を教員の協力で補うようにする。その際、「学修の記録」(履修カルテ)から各学生の特徴を詳細に把握し、より適切な学修支援を行う。毎授業後に、教員同士が各学生の授業中の様子や学修の状況についての情報交換を行い、次回からの指導に役立てる。</p>	
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 教員の使命や責任を自覚し、自発的・積極的に自己の課題を認識して学び続けることができる。</p> <p>2. 他の教員との協力や保護者・地域住民との連携の重要性を理解し、対人関係能力を高めることができる。</p> <p>3. 学級経営の基盤となる「子どもの発達状況に応じた適切な指導」を実践することができる</p> <p>4. 教科等指導の学習指導案を作成して模擬授業を行い、教科等の適切な指導力やICT活用指導力を身につけることができる。</p>	
授業の概要	<p>学校現場における研究授業参観や模擬授業などを通して、教職課程の他の科目や教育実習等を通して身につけてきた、将来教員になる上で必要な経験・知識・技能の「理論と実践の一体的な充実」を図る。より高い実践的授業力を身につけることを目的とする。</p>	
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション、「学修の記録」(履修カルテ)を基にした振り返り、自己課題の明確化</p> <p>第2回：動画等による研究授業の分析・考察・討論① <算数科・数学科を通して></p> <p>第3回：動画等による研究授業の分析・考察・討論② <国語科を通して></p> <p>第4回：動画等による研究授業の分析・考察・討論③ <生活科・総合的な学習(探究)の時間を通して></p> <p>第5回：情報機器及び教材の効果的な活用法の理解と分析・考察・討論① <情報機器の扱い方>(子どものタブレット等)</p> <p>第6回：情報機器及び教材の効果的な活用法の理解と分析・考察・討論② <情報機器の扱い方>(子どもと教師の情報共有・通信環境等)</p> <p>第7回：情報機器及び教材の効果的な活用法の理解と分析・考察・討論③ <先進校の実践事例>(近隣の公立小学校)</p> <p>第8回：情報機器及び教材の効果的な活用法の理解と分析・考察・討論④ <先進校の実践事例>(近隣の公立中学校)</p> <p>第9回：模擬授業の実践と分析・考察・討論① <国語科></p>	

- 第10回：模擬授業の実践と分析・考察・討論② <算数科・数学科>
 第11回：研究授業参観視察<研究授業参観> (近隣の公立小学校)
 第12回：研究授業研究協議<研究協議> (近隣の公立小学校)
 第13回：模擬授業の実践と分析・考察・討論③ <社会科>
 第14回：模擬授業の実践と分析・考察・討論④ <理科>
 第15回：研究授業参観視察<研究授業参観> (近隣の公立中学校)
 第16回：研究授業参観視察<研究協議> (近隣の公立中学校)
 第17回：模擬授業の実践と分析・考察・討論⑤ <外国語・外国語活動・英語>
 第18回：模擬授業の実践と分析・考察・討論⑥ <音楽科・図画工作科・美術科>
 第19回：研究授業参観視察<研究授業参観> (国立大学法人の附属中学校)
 第20回：研究授業研究協議<研究協議> (国立大学法人の附属中学校)
 第21回：模擬授業の実践と分析・考察・討論⑦ <体育科・保健体育科・家庭科・技術家庭科>
 第22回：模擬授業の実践と分析・考察・討論⑧ <道徳>
 第23回：研究授業参観視察<研究授業参観> (国立大学法人の附属小学校)
 第24回：研究授業研究協議<研究協議> (国立大学法人の附属小学校)
 第25回：模擬授業の実践と分析・考察・討論⑨ <特別活動>
 第26回：模擬授業の実践と分析・考察・討論⑩ <生活科・総合的な学習(探究)の時間>
 第27回：保護者対応や保護者支援、児童理解や学級経営の方法についての講義・討論
 第28回：実習で遭遇した困難な事例についての講義・討論
 第29回：様々な事例の法律的解釈
 第30回：教職に向けての振り返りとまとめ <発表>
 定期試験：なし

テキスト

- ・岡崎大学『教育実習(小)Ⅱ 実習の手引き』
- ・岡崎大学『教育実習(中・高)Ⅱ 実習の手引き』
- ・岡崎大学『学習指導案様式 学習指導案見本』
- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』(東洋館出版社)
- ・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』(東山書房)
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』(東山書房)
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)総則編』(東洋館出版社)
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説(平成29年告示)総則編』(東山書房)
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説(平成30年告示)総則編』(東洋館出版社)
- ・玉川大学教師教育リサーチセンター編『小学校・中学校・高等学校版 教育実習ガイド』(時事通信出版局2020)

参考書・参考資料等

- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説』(各教科等)
- ・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』(各教科等)
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説』(各教科等)
- ・『小学校用教科書』(各教科等)

- ・『中学校用教科書』（各教科等）
- ・『高等学校用教科書』（各教科等）
- ・その他、適宜、紹介する。

学生に対する評価

授業での発表内容と振り返り40%、学習指導案と模擬授業30%、課題や提出物30%、計100%